

## 有識者議員懇談会 議事概要

- 日 時 平成24年11月22日（木）10：00～11：23
- 場 所 合同庁舎4号館第3特別会議室
- 出席者 相澤議員、奥村議員、今榮議員、青木議員、中鉢議員、平野議員、大西議員、倉持統括官、吉川審議官、大石審議官

### ○ 議事概要

#### 議題1. 平成25年度科学技術関係予算 基礎研究・人材育成関連施策及び基盤的施策の進捗・改善の確認について

- 相澤議員 最初の議題は、「基礎研究・人材育成関連施策及び基盤的施策の進捗・改善の確認について」でございます。この件は、これまでも検討を重ねてきているところではありますが、基礎研究・人材育成については基本的な見解を示すという、所見を示すということになっております。今日は、その案を御検討頂きます。それでは、説明をお願い致します。

#### <内閣府 安間参事官より説明>

- 相澤議員 それでは、御質問、御意見、如何でしょうか。

- 今榮議員 これは質問なのですが、11ページのテニュアトラックのところ、「目標値達成に向けて導入機関、定着は十分とは言えない」という内容なのですが、導入機関のほうは、これは数が少ないということなのでは、定着が十分とは言えない」というのは、どういう内容の意味なのでしょうか。

- 事務局（安間参事官） 1つには、数ということがありますが、これとは別にテニュアトラックという制度の意義について、必ずしも十分に理解が進んでいないのではないかと。そのために導入という数字に表れていないのではないかとということの意味したものでございます。それが御覧頂いています表の「意義を強くアピールすることが重要である」として、「今後の取組に向けた所見」という中で御指摘を頂いているものというふうに理解をしております。

- 今榮議員 そうしますと、それは機関のほうの問題ではなくて、こちらのほうのアピールの問題という意味で宜しいのでしょうか。

- 事務局（安間参事官） 事業は文部科学省が予算をつけておりますが、目標値自体は総合科学技術会議科学技術基本計画の中に明確に示されてございます。この目標実現に向けた具体的な事業の意義の周知といったことを、事業を実施する担当省庁としてもう少し積極的に取り組む必要があるのではないかと趣旨でございます。

- 中鉢議員 総合科学技術会議の所見をまとめたという御報告ですが、この第4期を進めていく上で、毎年毎年所見をまとめるだけのやり方をやっていくという理解でいいのでしょうか、今後の進め方ということで。一部、今後の取組についての要望も出されていますので、今後どのようにゴールを目指していくのか確認させてください。

- 事務局（安間参事官） そもそもこの基礎研究・人材関係は冒頭申し上げました通り、なかなか短期間で明確なゴールが達成出来るというものでもございません。やはりある程度の期間にわたり、継続的に進捗状況の確認を行うということが必要になってくるということは、先ずあるかと思えます。

他方、御指摘の通り、これは単に所見を出して終わりということでは意味がございません。先程も御説明申し上げましたが、継続的にその進捗状況、改善の状況というものを確認し、それを次に生かして頂くという、PDCAというような形の取組が必要であると思っております。ですから、この所見については、こういうふうにおまとめ頂いたものを、各省庁、具体的には文部科学省に御提出するとともに、その後の状況について来年度、今年度はこういった所見が

出されていますが、どの程度改善を図られたのかということ、今年もやりましたけれども、明確にヒアリングの資料の中に項目としてお示しをし、具体的な中身についてお尋ねをし、改善に生かして頂くということを予定してございます。

○中鉢議員 PDCAサイクルに入っていますと言っているのか、或いは、それに入る前に所見をまとめたに過ぎず、これからPDCAサイクルを回していくということでしょうか。

○事務局（安間参事官） これは、まさにPDCAの中に組み込まれているものだというふうに理解しております。

○中鉢議員 組み込まれているということは、PDCAサイクルに入っているのに所見をまとめているということになりますが。この所見は、「P」の段階でしょうか。PDCAのどこの段階でしょうか。

○事務局（安間参事官） これは「C」の段階だというふうに理解しています。

○中鉢議員 「C」ですか？

○事務局（安間参事官） はい。「プラン」を立て、それを「ドゥ」、各省庁は継続的に事業を実施して参ります。これは単年度事業ではなく、継続的にやっておるもので。その事業について、どういった進捗が図られているか、どういう点がまだ足りないのか、ということについて「チェック」を頂き、それらを踏まえ翌年に向けた御評価を頂きその結果を所見として整理頂いたものです。これを各省庁にお伝えする。各省庁はそれを生かして次の「アクション」に繋げて頂く、ということですから、PDCAの中では「C」の部分に該当するものという理解をしてございます。

○相澤議員 今「各省庁に」という発言ですが、これはあくまでも概算要求された内容についての所見であって、これがアクションプラン、それから重点施策パッケージの三つぞろいで来年度概算の方針に見合っているものかどうかということ所見としてまとめているということがあります。これに基づいて本会議で報告され、そして、その本会議から資源配分に基づいた意見具申が各省庁に出されるというところです。位置付けとしては「C」。PDCAの中の「C」という段階に相当する訳ですが、これをもって完璧な「C」の段階であるということにはならないという位置付けだと思います。

○奥村議員 来年のことを言うのもあれなのですが、経緯からの御説明があったように、7月からこういう作業をやっている訳です。従って、我々の作業の効率というのか、効果というのかも検証しないといけないので、それが実は我々自身のPDCAなのです。そういう観点から見ますと、各施策の所見という、所見って、そもそも何なのだという御指摘もありましたが、これは予算との絡みでやっているのですけれども、予算の絶対額はともかく、昨年度に比べて相対的に変化しているケースが相当ある訳です。それぞれについても査定額と要求額が恐らく比較で出ているのだと思うのですけれども。その変化分を投入資金という面で、もう少し具体的にコメントしないといけないものがあると思うのですが、その話と、そもそも制度なりのそもそも論が所見に混ざっているのです、この2つが。従って、記述の全体に対する見通し感が悪い。そもそも論については、予算額の増減に伴って、そもそも論に具体的にどうリンクさせたのかとか、もう少しこの議論の仕方を整理する必要がある。査定が終わった後、多くのケースは維持が少し減らされている訳で、原課として財務当局からどういう理由で減らされたのかと。それを事業内容にどう変更させたのかということは今聴取出来ていない。これだけを4カ月もかけてやる訳なので、もう少しこの辺りのやり方を続けるのであれば、仕事の効果性を考えたように工夫される必要が私はあると思っています。

○中鉢議員 「C」の一環、ステージにあるということですが、「C」のステージにあることを「所見」とは言わないと思います。きちんと「評価をした」と言うべきだと思います。PDCAサイクルの「C」の段階を「所見」と訳しているケースを見たことがありませんので。

また、「方針などを確認した」と。方針を確認することを「C」と言うのかなと。一つ一つの位置付けを明確にすべきだと思います。

それから、奥村議員の意見にも共通しますが、個々の進捗についても、例えばテニユアトラックでは、「制度のブラッシュアップが必要だ」と言っておきながら、「今後の所見」としては、「運用面」とか、あるいは「アピールをきちんとしろ」と、ちぐはぐなところがあります。制度の見直しを求めているのか、或いは制度に基づいての進捗を見ているのかという点で混乱しているように見受けられます。

○相澤議員 只今の御指摘は、この基礎研究・人材育成関連施策だけではなく、科学・技術施策全体についてのPDCAのところ、まだ実は明確に対応が定まっていないという状況もあります。ですから、先程私が申し上げたのは、この位置付けとしては、C段階の一部にあるものであろう。但し、あくまでもこれは概算要求についてのコメントである。所見である。だから、「所見」なのです。「評価」ではない訳です。そのところが言葉の上と、それから進め方にまだ統一的な整理がされていないというところがあるかと思います。来年度以降のPDCAの中における位置付けと、それから概算要求に対する対応というところ、ここをパラレルに進めている訳なので、整理が必要だと思います。

○奥村議員 これで合計すると、結局幾らになるのですか。そういう全体がぱっと見えない。個別施策の要求金額は書いてあって、あるいは本年度の予算実績は書いてあるのですけれども、例えば最初の3ページ目ですか。何かこういうところで全体感が把握出来るように表記は工夫すべきだと思います。

○相澤議員 その他如何でしょうか。それでは、資料ナンバーが「調-1」と書いてある「平成25年度科学技術関係予算 基礎研究・人材育成関連施策及び基盤的施策の進捗・改善の確認について」の内容を御承認頂けませんか。有難うございました。なお、政務三役の御了承のもとに、全体の決定とさせていただきます。

## 議題2. 「平成25年度科学技術関係予算の編成に向けて（案）」について

(有識者議員の率直な意見交換の場とするため非公開)